



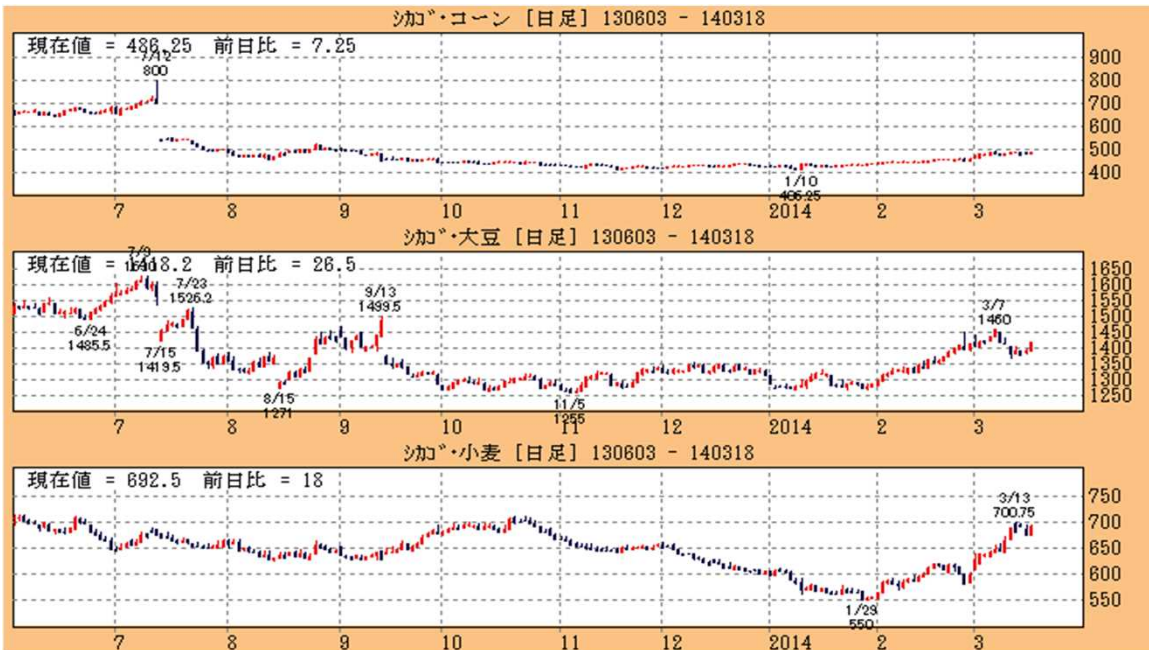
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

穀物価格は上昇

発行日 : 2014/3/19



18日のシカゴトウモロコシ5月限は7.25セント高の486.25セント。売りが先行したが、前日安値を維持したあと、大豆・小麦の急伸や、原油・株価の急伸をはやして反発に転じた。ロシアがクリミア編入を承認し、欧米との対立は深まったが、ウクライナは分断不要との発言でリスク商品が見直された。立会時間は、2.50セント高で寄り付いたあと、480.50セントまで後退したが、押し目買いが入って時間外取引の高値を突破した。大豆や小麦の上値追いを好感、原油・株価の急伸を受けたリスク商品の見直しも投機買いを誘い、487.00セント（8.00セント高：1.7%）まで値を飛ばした。ロシアのクリミア編入承認で欧米との対立は深まったが、金融市場でユーロが上昇（ドル下落）、株価・原油が上昇するなど、ウクライナの緊張は緩和との見方が広がった。欧州のトレーダーによると、韓国の農協飼料（NOFI）は、トウモロコシ19万3000トンを入札で買い付けたという。原産地は米国や南米。また台湾糖業は米国産旧穀トウモロコシ2万トンの買い付け入札を実施した。

18日のシカゴ大豆5月限は26.50セント高の1418.25セント。安寄りしたが、投機買いを集めて14ドルを突破した。ブラジル産地の天候不順で生産高の下方修正が予想されることや、輸出が好調なこと、圧砕が予想を上回ったこと、ウクライナ緊張の緩和でリスク商品が見直されたことが支援材料。売りが先行したが、押し目買いが入って切り返し、前日高値（1395.75セント）を突破した。ブラジル生産高の下方修正予想や需要が旺盛なことを好感、14ドル突破でテクニカル買いを誘った。立会時間は、12.00セント高で寄り付いたあと、1401.75セントまで後退したが、14ドルを維持したあとは、投機買いを集めて時間外取引の高値を突破した。ブラジル産地は南部の雨不足、北部の豪雨など、天候不順で生産高見通しの下方修正が予想されることや、成約キャンセル懸念が根強いものの輸出が依然好調なこと、2月の月間圧砕高が予想平均を上回ったことが好感された。3月7日に一代高値を更新したあと、米国・世界期末在庫の下方修正にもかかわらず、高値から94.50セントも急落したが、強気のファンダメンタルズを見直す買いが入った。ロシアのプーチン大統領がこれ以上のウクライナの分割を望まずと発言、金融市場が緊張緩和を受け止めて原油や株などリスク商品が急伸したことも強材料となり、1419.50セント（27.75セント高：2.0%）まで値を飛ばした。

18日のシカゴ小麦5月限は18.00セント高の692.50セント。終値の前日比は7.75～19.00セント高、中心限月の5月限は18.00セント高の692.50セントで引けた。5月限は、変わらずで始まったあと、ドル高が圧迫して672.50セントまで下落したが、前日安値（671.75セント）を維持して反発に転じた。米カンザス州の冬小麦の作柄は「良」以上が37%から34%に低下したことや、大豆急伸、ドル反落が強材料。エジプトが米国産5.5万トンを含み小麦合計17.5万トン買い付けたこともはやされ、693.50セントまで値を飛ばした。ロシア大統領がクリミア併合を承認し、欧米との対立は一層深まったが、これ以上のウクライナ分割は望まないと発言したことから、金融市場ではウクライナ懸念は後退と受け止められた。ただ、前日高値（694.25セント）にとどかず、インサイド・デー（はらみ足）にとどまった。ファンドは7000枚の買い越し。米農務省の週間報告では、カンザス州やオクラホマ州、テキサス州における乾燥による小麦の品質低下が示唆された。黒海沿岸地域の情勢緊迫化への懸念も支援要因となった。（先物情報ネットワーク）



TOPICS ウクライナは通貨安のために、今年の作付は減るだろうと

ウクライナの問題は穀物輸送に実害は及んでいない模様。仏アグリテルの現地法人幹部はブルームバーグに対し、港湾施設は通常通り機能しており、作業が継続しているとコメント。スイス系のブローカーも、小麦の出荷に支障が出ているような話は聞いていないと述べた。アグリテル幹部はそれでも情勢展開を見守る必要があると指摘。

ただ、今後については、3ヶ月にわたるウクライナの内紛により、資金が不足して2014年度のウクライナ産の穀物は、約1100万トンに影響が及ぶとUCAB社は述べている。UCABによれば、今年のウクライナの耕地面積のうち20%が資金不足と混乱により耕作されずに残るだろうという。更に土壌水分も不足しており、短期間で多くの土壌改良を行う必要があるという。例年より2週間早く3月1日には30万6千ヘクタールの土地に作付けが始まっている。農業省は、農家は春穀物を860万ヘクタールに農家は作付けする。そのうち今年は290万ヘクタールが早期作付け穀物となるという。アナリストやトレーダーはウクライナにとっては良好な天候に恵まれて大きな収穫が得られるとしても、問題は資金であるという。クリミアのロシアへの帰属問題で、ウクライナ通貨Hryvniaは2014年初めから10%以上下落しているため、銀行は貸付を絞っている。Hryvnia建てで種子や肥料、燃料等を買付けると、価格は通貨安のために上昇しているという。ウクライナは2013年6300万トンの穀物を生産している。

TOPICS INFORMA 南米の生産量を下方修正

Informa Economics社はアルゼンチンとブラジルの大豆生産量の見通しを下方修正した。アルゼンチンの13/14年度の大豆生産量は収穫面積の減少と単収の下方修正で、5700万トンから5300万トンに改定。ブラジルは8970万トンから8880万トンに改定した。トウモロコシについては、ブラジルは6655万トンから6545万トンに、アルゼンチンは2260万トン変わらずであった。同社は2014/15年度のインドの小麦生産量を前年比9%増の108百万

TOPICS INFORMAは米国のトウモロコシ作付面積を▲2.1%減と

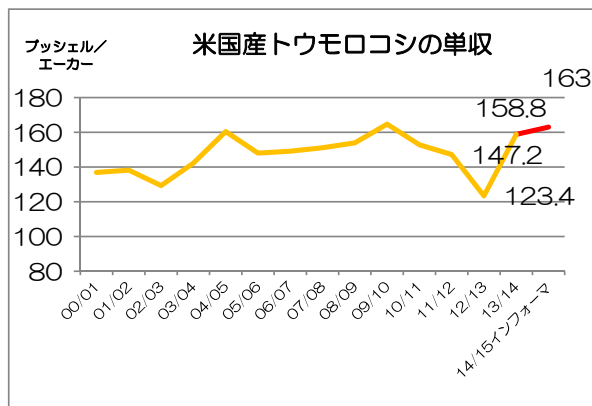
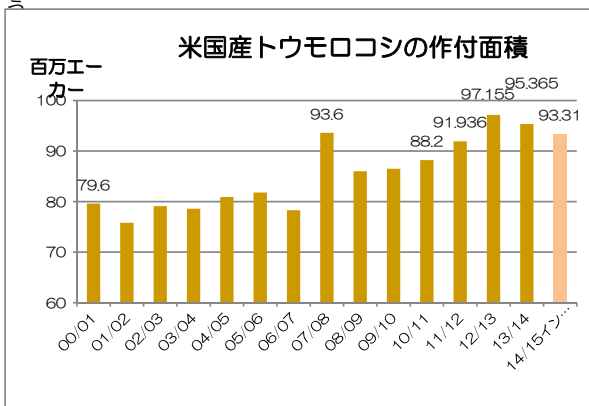
Informa Economics社は、2014年の米国のトウモロコシ作付け面積を当初の9184.6エーカーから9331.9エーカーに増やした。

同社は、トウモロコシの作付面積をUSDAによる2013年度の作付面積9536.5万エーカーより▲2.1%減少するとしている。

同社によれば、シカゴトウモロコシの価格が一年前に比べて40%も下落して4.25ドルになっているにもかかわらず、トウモロコシを作付けしたいと強く望んでいるという。大豆はこの間わずか▲8%下落して13.15ドルになっただけである。

同社は、この作付面積でいけば、2014年度はトウモロコシは、単収が163ブッシェル/エーカーであるなら、生産量は140億ブッシェルになるとい

年度	作付面積	前年比	収穫面積	収穫率	単収	生産高
	百万エーカー	(%)	百万エーカー	(%)	Bu/Arc	百万bus
05/06年度	81.8	+1.1%	75.1	91.8%	148.0	11,114
06/07年度	78.3	▲4.3%	70.6	90.2%	149.1	10,535
07/08年度	93.6	+19.5%	86.5	92.4%	151.1	13,074
08/09年度	86.0	▲8.1%	78.6	91.4%	153.9	12,101
09/10年度	86.5	+0.6%	79.6	92.0%	164.7	13,092
10/11年度	88.2	+2.0%	81.4	92.3%	152.8	12,447
11/12年度	91.9	+4.2%	84.0	91.4%	147.2	12,360
12/13年度	97.2	+5.7%	87.4	89.9%	123.4	10,780
13/14年度	95.4	▲1.8%	87.7	91.9%	158.8	13,925
14/15年度インフォーマ予想	93.3	▲2.1%			163.0	14,000





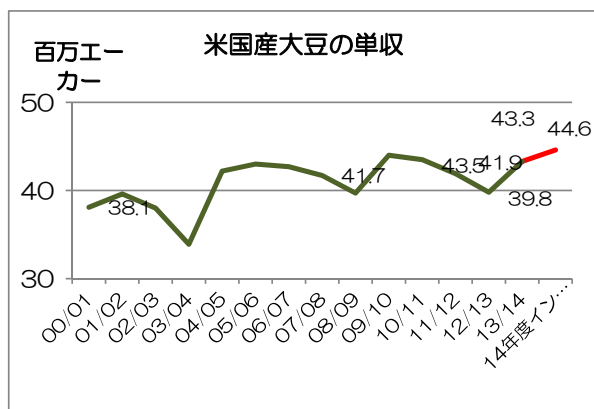
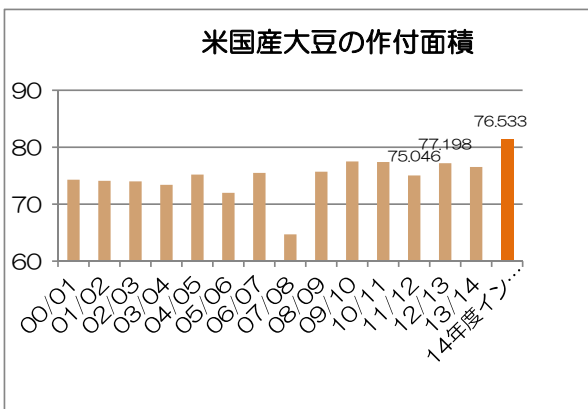
TOPICS INFORMAは米国の大豆作付面積を+6.2%増と

Informa Economics社は、2014年の米国の大豆の作付面積を8192.9万エーカーから8126.4万エーカーに減らした。しかし、この減少した大豆の作付面積でも米国においては過去最大となる。これまでの最大作付け面積は2009年の7745.1万エーカーであった。

また大豆の作付面積は、2013年度より6.2%増としている。

この作付面積でいけば、大豆は単収が44.5ブッシェル/エーカーなら36億ブッシェルになるという。もしそうならばトウモロコシも、大豆も、どちらも過去最大の生産量となる。2013年の生産量はUSDAによれば、大豆は32.89百万ブッシェル

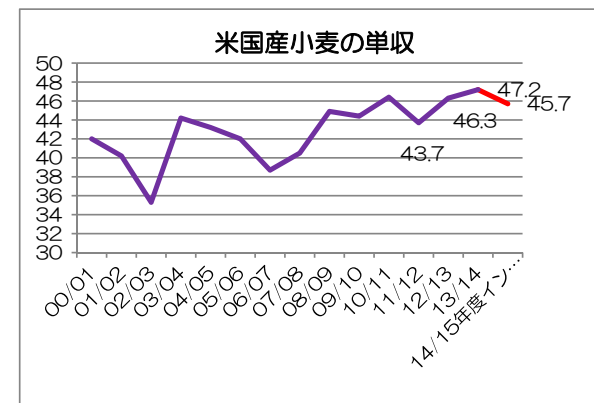
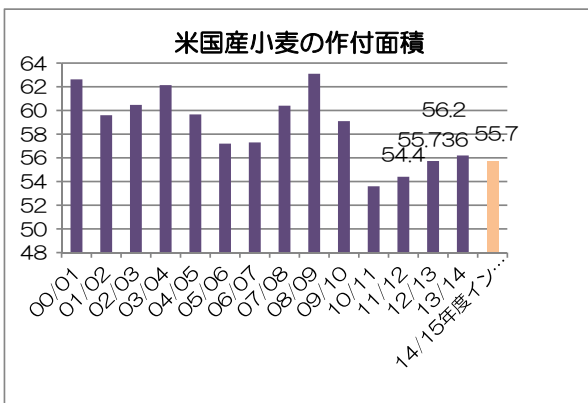
年度	作付面積	前年比 (%)	収穫面積 百万エーカー	収穫率 (%)	単収 Bu/Arc	生産高 百万bus
	百万エーカー					
05/06年度	72.0	▲4.3%	71.3	99.0%	43.0	3,063
06/07年度	75.5	+4.9%	74.6	98.8%	42.7	3,188
07/08年度	64.7	▲14.3%	64.1	99.1%	41.7	2,676
08/09年度	75.7	+17.0%	74.7	98.7%	39.7	2,967
09/10年度	77.5	+2.4%	76.4	98.6%	44.0	3,359
10/11年度	77.4	▲0.1%	76.6	99.0%	43.5	3,329
11/12年度	75.0	▲3.0%	73.8	98.3%	41.9	3,094
12/13年度	77.2	+2.9%	76.2	98.7%	39.8	3,034
13/14年度	76.5	▲0.9%	75.9	99.1%	43.3	3,289
14/15年度インフォーマ予想	81.3	+6.2%			44.5	3,600



TOPICS INFORMAは米国の小麦作付面積を▲0.9%減と

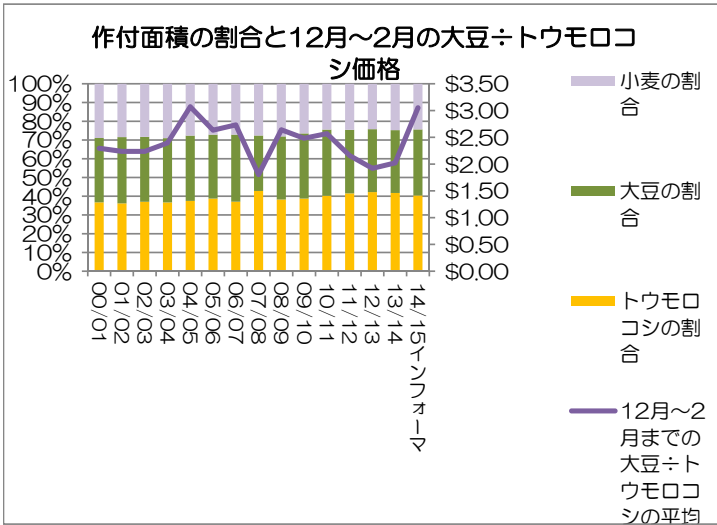
インフォーマ・エコノミクス社は、小麦の作付面積4189.2百万エーカーとし、DURAM以外の春小麦の生産量は1209.8百万ブッシェル、全小麦の作付面積は5579.8百万エーカーで、全小麦の生産量は22.4億ブッシェルと2013年の21.3億ブッシェルより0.9億ブッシェル増加するとしている。

年度	作付面積	前年比 (%)	収穫面積 百万エーカー	収穫率 (%)	単収 Bu/Arc	生産高 百万bus
	百万エーカー					
05/06年度	57.2	▲4.1%	50.1	87.6%	42.0	2,105
06/07年度	57.3	+0.2%	46.8	81.7%	38.7	1,812
07/08年度	60.4	+5.4%	51.0	84.4%	40.5	2,067
08/09年度	63.1	+4.5%	55.7	88.3%	44.9	2,500
09/10年度	59.1	▲6.3%	49.9	84.4%	44.4	2,218
10/11年度	53.6	▲9.3%	47.6	88.8%	46.4	2,207
11/12年度	54.4	▲8.0%	45.7	84.0%	43.7	1,999
12/13年度	55.7	+4.3%	49.0	88.0%	46.3	2,269
13/14年度	56.2	+0.8%	45.2	80.4%	47.2	2,130
14/15年度インフォーマ予想	55.7	▲0.9%	49.0		45.7	2,240





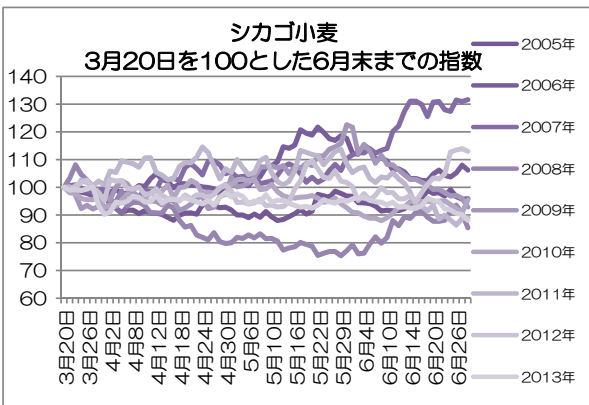
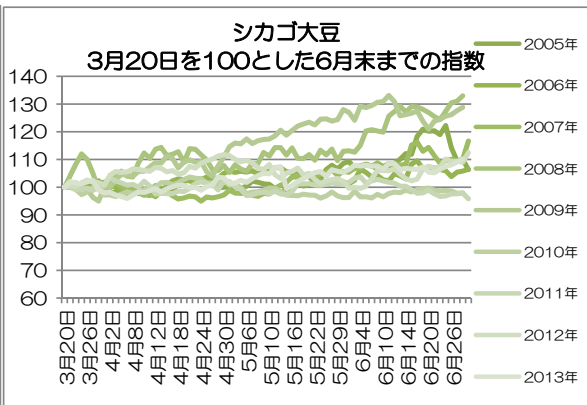
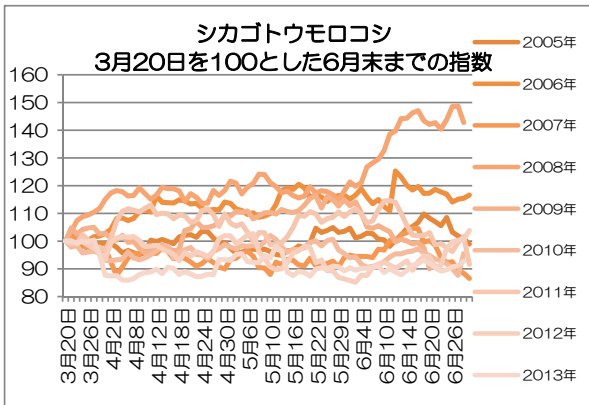
TOPIC トウモロコシと大豆と小麦の作付面積割合推移



	トウモロコシの割合	大豆の割合	小麦の割合	12月～2月までの大豆÷トウモロコシの平均
00/01	36.8%	34.3%	28.9%	2,295
01/02	36.2%	35.4%	28.4%	2,237
02/03	37.0%	34.6%	28.3%	2,237
03/04	36.7%	34.3%	29.0%	2,394
04/05	37.5%	34.9%	27.7%	3,072
05/06	38.8%	34.1%	27.1%	2,634
06/07	37.1%	35.8%	27.1%	2,733
07/08	42.8%	29.6%	27.6%	1,803
08/09	38.3%	33.7%	28.1%	2,641
09/10	38.8%	34.7%	26.5%	2,483
10/11	40.2%	35.3%	24.5%	2,569
11/12	41.5%	33.9%	24.6%	2,159
12/13	42.2%	33.6%	24.2%	1,920
13/14	41.7%	33.5%	24.7%	2,022
14/15イソフォーマ	40.4%	35.2%	24.3%	3,052

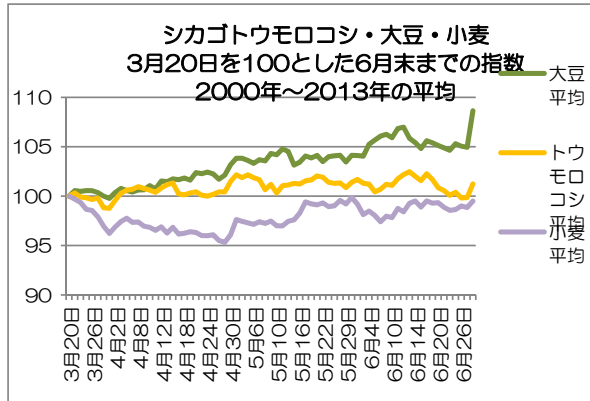
2005年からの3月20日を100とした6月末までの価格の動き

毎年春には、今後の穀物価格が天候次第でどうなるかわからないため、それがはっきりするまで買われて高くなるのではないかとこの仮定を建てて、過去の価格の動きを検証してみた。



その結果、大豆価格は比較的強い傾向で価格は6月末まで上昇していることがわかった。トウモロコシと小麦はどちらともいえない結果であった。

2000年から2013年の3月20日から6月末までの指数の14年間の平均を取ると、大豆は上昇しており、トウモロコシも少し上昇しているが、小麦は下落している。



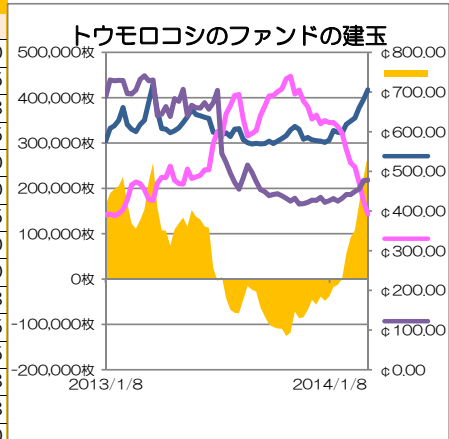
大豆とトウモロコシは3月に買えば上がる確率が高い



TOPIC ファンドの建玉

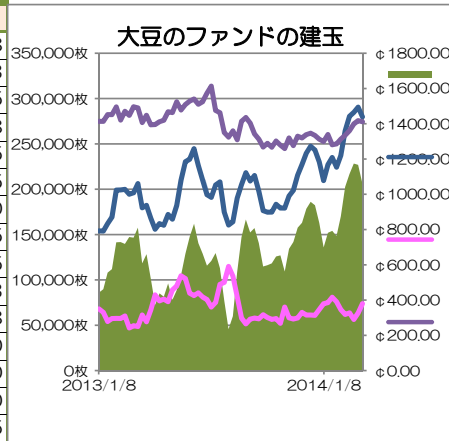
トウモロコシのファンドの建玉

までの週	取組高	買い残	売り残	ネット買い残	増減	価格
12月3日	1,521,559枚	312,148枚	380,353枚	▲68,205枚	+16,150枚	\$422.0
12月10日	1,536,489枚	307,010枚	353,006枚	▲45,996枚	+22,209枚	\$427.5
12月17日	1,550,962枚	305,191枚	361,463枚	▲56,272枚	▲10,276枚	\$426.8
12月24日	1,524,435枚	304,078枚	342,634枚	▲38,556枚	+17,716枚	\$434.5
12月31日	1,531,779枚	301,439枚	349,480枚	▲48,041枚	▲9,485枚	\$422.0
1月7日	1,563,886枚	306,346枚	345,196枚	▲38,850枚	+9,191枚	\$426.0
1月14日	1,646,323枚	327,579枚	344,977枚	▲17,398枚	+21,452枚	\$431.5
1月21日	1,680,673枚	323,944枚	336,704枚	▲12,760枚	+4,638枚	\$425.0
1月28日	1,660,475枚	322,233枚	321,949枚	+284枚	+13,044枚	\$432.0
2月4日	1,686,048枚	341,549枚	285,223枚	+56,326枚	+56,042枚	\$441.8
2月11日	1,729,744枚	348,185枚	256,202枚	+91,983枚	+35,657枚	\$441.5
2月18日	1,774,313枚	355,348枚	247,299枚	+108,049枚	+16,066枚	\$449.5
2月25日	1,652,554枚	378,628枚	211,575枚	+167,053枚	+59,004枚	\$455.8
3月4日	1,689,545枚	395,852枚	171,925枚	+223,927枚	+56,874枚	\$476.8
3月11日	1,727,031枚	417,337枚	143,248枚	+274,089枚	+50,162枚	\$478.0



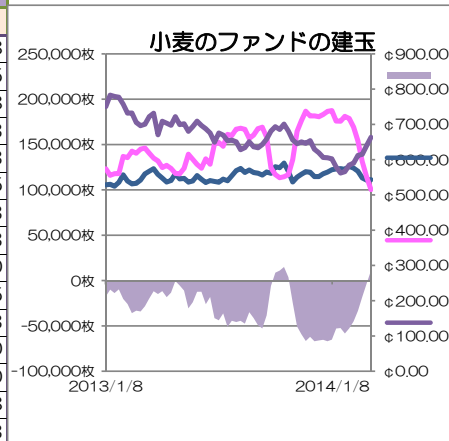
大豆のファンドの建玉

までの週	取組高	買い残	売り残	ネット買い残	増減	価格
12月3日	756,122枚	227,258枚	64,225枚	+122,421枚	+5,420枚	\$1,319.8
12月10日	789,314枚	239,750枚	61,284枚	+138,341枚	+15,433枚	\$1,338.3
12月17日	811,261枚	247,413枚	61,260枚	+143,090枚	+7,687枚	\$1,346.5
12月24日	786,037枚	243,299枚	60,929枚	+124,319枚	▲3,783枚	\$1,333.8
12月31日	712,941枚	230,162枚	67,404枚	+117,084枚	▲19,612枚	\$1,312.5
1月7日	722,037枚	209,543枚	73,707枚	+86,056枚	▲26,922枚	\$1,299.5
1月14日	739,472枚	226,923枚	74,939枚	+89,733枚	+16,148枚	\$1,339.0
1月21日	764,688枚	234,948枚	80,876枚	+108,027枚	+2,088枚	\$1,280.5
1月28日	743,080枚	224,330枚	75,958枚	+111,929枚	▲5,700枚	\$1,285.5
2月4日	778,519枚	237,402枚	67,227枚	+141,435枚	+21,803枚	\$1,313.3
2月11日	835,846枚	264,506枚	61,870枚	+141,705枚	+32,461枚	\$1,334.8
2月18日	858,410枚	280,432枚	63,692枚	+139,694枚	+14,104枚	\$1,361.0
2月25日	834,272枚	284,738枚	56,395枚	+147,339枚	+11,603枚	\$1,399.0
3月4日	831,220枚	290,466枚	63,555枚	+146,632枚	▲1,432枚	\$1,418.0
3月11日	849,739枚	279,852枚	73,801枚	+157,623枚	+10,991枚	\$1,411.5



小麦のファンドの建玉

までの週	取組高	買い残	売り残	ネット買い残	増減	価格
12月3日	453,589枚	119,478枚	181,567枚	▲62,089枚	+4,602枚	\$653.8
12月10日	465,509枚	114,648枚	181,568枚	▲66,920枚	▲4,831枚	\$629.5
12月17日	488,060枚	114,658枚	180,713枚	▲66,055枚	+865枚	\$619.8
12月24日	503,814枚	117,787枚	183,133枚	▲65,346枚	+709枚	\$606.3
12月31日	500,015枚	119,574枚	186,512枚	▲66,938枚	▲1,592枚	\$605.3
1月7日	508,765枚	122,172枚	187,382枚	▲65,210枚	+1,728枚	\$602.5
1月14日	537,899枚	123,037枚	175,962枚	▲52,925枚	+12,285枚	\$579.3
1月21日	572,239枚	123,449枚	175,780枚	▲52,331枚	+594枚	\$562.3
1月28日	571,942枚	122,659枚	181,060枚	▲58,401枚	▲6,070枚	\$566.0
2月4日	570,981枚	125,994枚	178,752枚	▲52,758枚	+5,643枚	\$584.5
2月11日	569,751枚	124,053枚	169,224枚	▲45,171枚	+7,587枚	\$590.3
2月18日	556,645枚	120,615枚	153,992枚	▲33,377枚	+11,794枚	\$612.0
2月25日	473,752枚	113,220枚	131,269枚	▲18,049枚	+15,328枚	\$615.0
3月4日	452,194枚	110,791枚	114,233枚	▲3,442枚	+14,607枚	\$639.8
3月11日	458,963枚	111,247枚	100,407枚	+10,840枚	+14,282枚	\$663.3



ファンドのネット買い残はトウモロコシが、10週連続で大きく買われ、27万4千枚まで残高が積み上がっている。

大豆は4週連続の買いが増えた後、1週おいて6週連続の増加で15万7千枚の残高となっている。小麦も6週連続のネット買い残の増加となっており、穀物は概して買い続けられていると言ってよい。小麦はネット売り残から買い残に変わっている。



今後の予想

ウクライナの問題から、穀物は買われている。実際に何か支障が起きているかといえば、輸出は滞りなく行われていると報道されており、旧穀に対する影響は無いが、政治的経済的混乱から、2014年度の作付については、ウクライナ通貨フリヴニャが安くなっていることにより、肥料価格等が高騰して、農家の資金面を圧迫しているという。

一般的に春になると穀物価格は高くなるとの感覚があったが、それを2000年からのシカゴ価格で検証してみたら、明らかに大豆とトウモロコシは3月20日以降6月にかけて価格が上昇する傾向があった。

作付意向面積は3月31日に公表されるが、インフォーマエコノミクス社の予想では大豆の作付が6%増えて、トウモロコシが2%減少、小麦は横ばいという。その面では大豆価格が下落する可能性があるが、過去のデータでは春先は大豆価格が上昇する方が多く、また大豆の在庫の方が4%でトウモロコシの在庫12%より少なくタイトである。それからしても、今後大豆価格が上昇する可能性が高いと思われる。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：



株式会社コモディティ インテリジェンス
〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス：kondo@commi.cc